

R6年度 学校教育自己診断 集計結果

令和7年2月3日 学校運営協議会資料

1.実施時期および実施方法

【教職員】令和6年11月5日～11月12日

【保護者】令和6年11月12日～11月26日

【高等部生徒】令和6年11月12日～11月26日

- ・R6年度より教職員、保護者に関しては「さくら連絡網」のアンケート機能を利用した。また、希望者や「さくら連絡網」未登録の保護者に関しては、紙で回答できるようにした。
- ・高等部の生徒に関しては、紙でのアンケートを実施した。

2.回収率

●教職員の回収数・回収率

教職員	令和6年度（今年度）		令和5年度（昨年度）	
	回収数（教員数）	回収率	回収数（教員数）	回収率
	109（164）	68%	140（146）	96%

※未登録4

●保護者の回収数・回収率

保護者 （学部）	令和6年度（今年度）		令和5年度（昨年度）	
	回収数（児童生徒数）	回収率	回収数（児童生徒数）	回収率
小学部	41（50）	82%	32（44）	73%
中学部	17（32）	57%	17（29）	59%
高等部	95（135）	71%	100（140）	71%
全体	153（219）	71%	149（213）	70%

※中→未登録3（紙での提出1） 高→不達1

●生徒の回収数・回収率

生徒 （高等部のみ）	令和6年度（今年度）		令和5年度（昨年度）	
	回収数	回収率	回収数	回収率
	65（135）	48.1%	108（140）	77%

3.集計結果および考察（集計結果一覧は別紙集計表を参照）

（1）教職員アンケートについて（前年度と比較して肯定率の増減が5%以上の項目について）

	アンケート項目	令和6年度肯定率	前年度との比較
2	私は、教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている	87.2%	-7.1%
4	私は、子どもの課題や家庭のニーズに即した、将来に向けての指導をしている	96.3%	+5.6%
8	学校は、ホームページ等を活用し、教育活動の様子を積極的に公開している	74.3%	+8.6%
14	学校長は、自らの教育理念や経営計画についての考えを明らかにし、リーダーシップを発揮している	74.3%	+8.6%
27	学校での、研修や授業研究は充実している	77.1%	-6.5%

2については、肯定率は前年度より下がっているものの高い肯定率を保っている。日々、ゆとりをもって児童生徒と関わる時間を設け、教員同士で話し合える環境を整えられるようにしたい。

4についての肯定率は非常に高く、前年度よりも5.6%高くなっている。これは、日々の連絡帳や個人懇談で保護者のニーズに対応し、自立や将来に向けた指導を心掛けていると思われる。

8についても前年度より8.6%と肯定率が高くなっている。教職員もさくら連絡網やHPを活用し日々の教育活動の様子などを積極的に公開している。また、保護者に関しても、この項目は4.5%と向上しており、少しずつではあるが、教職員の取り組みが周知されてきたことと思われる。今後も、積極的に情報を公開し、さくら連絡網等で更新状況をお知らせできるようにしたい。

14の項目に関して、前年度より8.6%と向上している。教職員から各分掌が吸い上げた「取り組みたい内容」や意見を直接、会議等で校長や准校長などに具申し、対話を通して助言を頂き、一人ひとりが学校経営に関わっている意識が出てきているものと思われる。今後も、教職員一人ひとりが学校運営を行っている意識していけるようにしていきたい。

27については、前年度より6.5%も下がってしまった。今年度は、研修の日程が被っていたり、同じ時間帯での研修が多かったりした。研究授業なども会議や校外学習などと被ってしまうことがあった。次年度は、日程調整など一括して調整する機関を設け、教職員が研修を有意義に受けられるようにしていくことが必要と思われる。たくさんの教員が色々な授業を見たり、研修を受けたりして向上を図れるようにしていきたい。また、研修の内容に関しても同じものや似たような内容のものではなく、基本は大事だが日々の教育活動をブラッシュアップできる内容のものや、教職員のニーズに合った研修を行っていく必要がある。

（2）保護者アンケートについて（前年度と比較して肯定率の増減が5%以上の項目について）

	アンケート項目	令和6年度肯定率	前年度との比較
6	学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる	93.4%	+7.5%

6については、近年、学校いじめ防止対策会議が中心となって全保護者、教職員に対し「いじめ防止基本方針」について丁寧な説明を行っていることで、「いじめに該当する行為」への認知を高める取り組みが定着してきたと考えられる。保護者と教職員が児童生徒の言動に対して常に見守っていることで、いじめ未然防止につながっていると考えられる。生徒のアンケートについても肯定率が上がっており、何かあればすぐに対応してくれるという信頼関係が

結ばれてきたと思う。この信頼関係を大切に今後も日々の教育活動を進めていきたい。

(3) 生徒アンケートについて

アンケートの回収率が今年度48%（136名中65名提出）であった。昨年度は71%（140名中100名提出）であり、昨年度より提出率が下がった。配付方法と周知のやり方について振り返り、改善していく。その中で質問項目3,4は前年度より肯定率が特に上がっている。これは、いじめに関する理解学習、高1からの進路実習などの取り組みによるものではないかと考えられる。また、質問項目12は前年度より肯定率があまり上がっていない。教員がICTを積極的に利用し、授業や校務で活用できる力が求められていると考えられる。

・保護者アンケート6、生徒アンケート4について

保護者、生徒ともに肯定率は上がっている。しかし、否定的な回答も一定数ある。また、生徒アンケート5については「まったくあてはまらない」の回答はないが、「あまりあてはまらない」は2名の回答がある。教員に相談してはいるが、あまり納得のいく解決ではないことが伺える。この回答を真摯に受け止め、生徒や保護者の思いに寄り添った教育活動ができるように教職員の人権意識を高め改善を図っていきたい。

(4) 今後の課題

・教職員アンケートについて

今年度より教職員、保護者ともにさくら連絡網での回答方法を実施した。教職員については、前年度よりも回答が少なく68%と減少した。自己診断に限らず、今年度はアンケート全般に対する回答率が全体的に低い。これは、便利になっている一方で、案内を見て、読み流してしまう傾向があるのかと考えられる。提出が未定の者に対して再度さくら連絡網で提出の期限、診断項目などを送信したり職員朝礼で全体に促したりしたが増加には至らなかった。次年度以降は、提出率を上げるために、再度、さくら連絡網での回答で実施するのかを考えていきたい。

また、自己診断に関して、自由アンケートと思っている教職員もおり、「回答する必要がない」などと思っていることも今回わかった。学校教育に関わる教職員全員で意見を出し合い、教育の向上を図っていく必要があるので未提出をなくせるように改善していきたい。

保護者に関しては、さくら連絡網にすることで、若干ではあるが回答率が上がっている。次年度もこのままさくら連絡網を活用し増加できるようにしたい。

・生徒アンケートについて

例年通り、高等部の全生徒対象に実施した。しかし、自分で回答できる生徒が少なく担任の判断で自己診断そのものを実施しないクラスが多くみられた。期限内での提出は33.3%と低く、期限を大幅に延長して要約、48.1%まで上げることができた。しかし、半分以下の提出率になってしまい、前年度との正確な比較ができていない。また、アンケートの実施方法についても、高等部全体で行うべきなのか考えていく。

提出されたアンケートについては、肯定されるものが多く日ごろの教育活動で教員と生徒の信頼関係が結べているのがうかがえる。また、無回答についても若干名いるが、すべての項目での無回答ではない。無回答が少ないから良いのではなく、無回答を減らせるような教育活動を目指していきたい。